



まちの話題

「安全安心のまちづくり」に地域の温かい見守りの目

子どもの安全見守り強調週間

長期休みを明けた9月1日から7日までの一週間は『子どもの安全見守り強調週間』でした。

子どもたちにとって地域の人々に見守ってもらえることは、何よりも心強いこと。市民の皆さん、今後もできることから子どもの見守り活動へのご協力をお願いします。



ぼんぼら飯にもチャレンジ

特産品直売パイロットシヨップ 新米まつり

今年収穫された新米を試食してもらい、光市産の農産物のPRを目的とした、光市特産品直売パイロットシヨップの「新米まつり」を9月6日(土)に開催しました。

朝から真夏のような暑い日でしたが、参加者には東荷産こしひかりの新米おにぎりや豚汁が振るまわれ、皆さん舌鼓を打ちました。

また、竹筒で炊飯する、「ぼんぼら飯」づくりの体験コーナーは、子どもたちに大人気。親子とともに汗だくで火を起す姿が見受けられました。炊き上がったご飯は持ち帰る人がほとんどでしたが、家族の食卓では、どのような話の花が咲いたのでしょうか。

チェッカーフラッグを 目指して

第48回子ども会大会

ゲームを通じて子どもの個性や行動力を伸ばし友愛や連帯感を醸成する、子ども会大会(主催 光市子ども会育成連絡協議会(吉原則行会長)・光市教育委員会)が9月13日(土)、市民ホールで開催されました。

48回目を数える今回も、参加した皆さんは、屋内、屋外に用意された皆さんのチャレンジコーナーに挑みました。なかでも、三輪車でのレースコーナーは、男女を問わず人氣が集まり、本番さながらの音楽が鳴り響く中、曲がりくねったコースを、思い通り動かない三輪車をこぎながら熱戦を繰り広げました。



秋の夜に響く音色

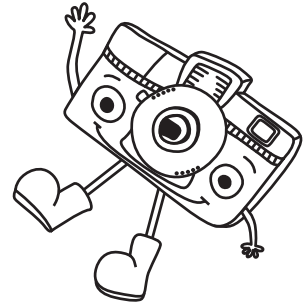
十五夜LIVE

9月13日(土)、冠山総合公園で、昨年に引き続き「十五夜LIVE」を開催しました。今年6月には、イベント広場ステージの屋根が完成。リニューアルした屋外ステージで、周南音楽会による雅楽、王丹さんによる二胡が演奏されました。

あいにくの空模様で、十五夜の月をめでることはできませんでしたが、500人と多くの来場者がありました。優雅で趣のある日本伝統の雅楽やエキゾチックな二胡の音色を聴き、来場した皆さんもすっかりロマンチックな秋の夜を堪能されたようでした。



こども特派員の



夏休みレポート

消防署を見学して



三輪小学校6年
のみ あいり
野美愛梨さん

光の消防署は、新しくてきれいな建物でした。これは、前の建物が古くなり、大きな地震に耐えられないから新築したとのことでした。消防署では、火事を消したり急病人や事故のけが人を運んだりと24時間、職員の方が働いています。

早く正確に出動するため、通信指令室で連絡を受けたら自動的に行き先の地図が出るなど、連絡から1分以内に出勤できるように、いろいろな工夫がされていました。

取材をしたときも、2時間ほどの間に、救急の出動の放送が署内に響

き、3件の出動が行われました。

そのときは、駆け足で出勤する隊員の人と廊下ですれ違い、とても緊張感が感じられました。救急車の中も見たかったのですが、全部出勤してしまい、見られませんでした。

はしご車や化学消防車などの、いろいろな消防車を見学した後で、消防署内の防災センターでは、実際に火事や地震などにあつたときの避難の仕方を、仮想映像で体験しました。なかなか安全な所に逃げられず、結果は死亡と判定されました。本当にこんな場面に出会ったらどうしようかと思いました。

また、火事で本当に怖いのは煙で、煙を吸わないよう頭を低くし、誘導灯を目標に避難することなども学びました。

驚いたのは、男性の職場だと思っていた消防署に女性の消防隊員が2

人いるということでした。

日ごろはあまりお世話になることのない消防署ですが、私たちの、万一の事態に備えて多くの人が日夜働いていることがよく分かりました。

えこぱーくを取材して



浅江小学校5年
はらだ ゆめか
原田夢佳さん

光市では、とてもたくさんのごみが出されます。私は、そのたくさんのごみを少しでも減らそうとしている周南東部環境施設組合リサイクルセンター「えこぱーく」を見学しました。そこには、たくさんのおペットボトルやトレイやガラス瓶、あき缶などの燃えないごみが集まっています、とても驚きました。そのごみが運ばれてきたものでした。

運ばれてきたごみは、種類ごとに専用の受け入れホッパに入れられ、その後手作業や機械作業で分別され、資源としてリサイクルされました。そして、資源化できないものは、埋め立てられています。私たちが見学している間も、大きなト



ラックが何台もごみを運んできて、施設の職員の方はとても忙しそうでした。

ごみは、地球環境にとって良くないものです。また、今の日本はまだ使えるものでも、すぐに捨ててしまします。けれど、私たち一人ひとりが、少しでもごみを減らせば、少しずつだけれど地球に優しいまちにできるのです、努力してごみを減らそうと思えました。

施設の方が言われていた、「捨てればごみ。リサイクルすれば資源」という言葉のように、これからますます、光市が地球に優しいまちであるように、日常の生活の中で、ものを大切に使うことでごみをあまり出さないようにし、ごみとして出すときもちゃんと分別し、リサイクルしやすいようにしていくことを続けていきたいと思いました。